

普及活動情勢報告（平成29年11月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

温室みかん部会野市支部現地研修会



11月7日、JA土佐香美温室みかん部会野市支部が現地研修会を開催し、生産者10名が参加しました。早期加温の作型では10月末に加温を開始しており、本格的に今作の栽培が始まりました。

農業改良普及課は、炭酸ガス施用実証ほの状況やミカンハダニに関する技術情報を提供しました。ミカンハダニについては、ダニ剤の効果が極端に低下したほ場が見られたことから、試験場等の技術支援によりスワルスキーカブリダニを利用したIPMについて実証試験を行うことを周知しました。

ミカンハダニで困っている生産者は多いものの、IPM技術が現場で確立できていないことから、生産者の関心はあまり高くありません。農業改良普及課では、実証農家や関係機関と協力して、IPM実証試験で良好な結果を示し、現場での技術確立を目指します。

南国市シントウ産地ビジョン



9月27日にJA長岡シントウ部会、10月26日にJA南国市シントウ部会（南部）総会、10月30日にJA南国市シントウ部会（中央）総会が開催され、生産者が計45名参加しました。

農業改良普及課は、南国市3JAシントウ部会の部長、女性部役員、園芸連、市、各JA職員からなる合同会議で検討してきた「南国市シントウ産地ビジョン」を提案したところ、賛同が得られ産地ビジョンが承認されました。今後は、他の部会でも同様に産地ビジョンを提案していく予定です。

農業改良普及課は、JA各部会、関係機関と連携して、南国市全域のシントウ産地ビジョンの推進に向けた取り組みを支援していきます。

JA土佐香美のオクラ・春菊部会は、春菊の目慣らし会と現地検討会を開催しました



JA土佐香美オクラ・春菊部会における春菊の出荷目慣らし会と現地検討会が、11月1日に土佐山田支所、2日に野市支所園芸センターで17名が参加して開催されました。2度の台風による被害で、出荷前の春菊が傷んだため、現物を見ながらの目慣らしはできず、資料による出荷についての検討となりました。

その後の、現地検討会ではJA及び農業改良普及課からの資料と現地の状況を見ながら今後の栽培について熱心に検討が行われました。

農業改良普及課は、今後も部会の活性化と生産性向上に支援を行っていきます。

ユズの担い手に集積可能な農地を確認



11月14日、農地中間管理機構の職員2名と農業改良普及課は、ユズの就農希望者への農地集積を図るため、香美市香北町で貸借を希望する農地の確認を行いました。

今回は、複数の貸し手（地権者）の農地を集約して貸し付けるため、農地中間管理事業による契約を想定しています。管内のユズでは、初めての農地中間管理事業の活用になることから、園地条件などを助言するため、農業改良普及課が同行しました。

今後も農業改良普及課は、就農希望者の経営安定に向け、農地集積等の取り組みを支援します。

第20回全国農業担い手サミット in こうち～中央東地域交流会を開催～



10月24～25日、南国市のアンジェブランならびに管内3市で、情報交換会及び現地研修会が開催され、県内外から農家、関係者184名が参加しました。農業改良普及課は、中央東地域実行委員会事務局として、情報交換会や現地研修会の企画から実施までを総合的に支援しました。

県外参加者からは、「地元農家との交流で様々な情報を得ることができた」、「地域が一体となってサミットに取り組んでいると感じた」や「地元の食材や味を感じることができてよかった」など、感謝や労いの言葉も頂きました。

農業改良普及課は、今後も認定農業者や認定新規就農者など担い手の確保・育成に向けた支援を行います。

3JA シシトウ現地検討会を開催しました



11月13日に南国市で3JA 合同でシシトウ現地検討会を開催し、総勢16名が参加しました。今回は、2本垣根仕立てのほ場2か所で実施しました。

農業改良普及課からは、産地ビジョンをもとにした活動内容や、2本垣根仕立ての方法等を紹介しました。

生産者の方からは、「ほ場がきれい」「見やすくて収穫しやすそう」「番線を引くことや下の位置の果実を収穫するのは大変では？」等の意見が聞かれました。次回は、4本仕立てで低位摘芯を行っているほ場で実施する予定です。

農業改良普及課は、今後も現地検討会等を通じて、仕立て方法や蒸発散量に応じたかん水管理など基本技術についての情報を提供し、シシトウの生産安定を支援していきます。

調製作業機の効率的な活用に向けて



ニラ栽培では、収穫後の調製作業が全労働時間の80%を占めています。JA 土佐香美管内では調製作業を省力化するために、調製作業機の導入が進んでいます。

農業改良普及課は、管内の農家に、より効率的に調製作業機を活用してもらうために、優良事例を調査しました。作業員が機械操作を行ったり、労働時間が2時間短縮されていたり、といった事例が明らかになりました。

今後、引き続き調査を行い、昨年度作成した事例集を改定し周知することで、調製作業機の効率的な活用に向けて支援します。

台風被害復旧に向けて 香南市・香美市補助事業等説明会及び相談会



11月6日に台風被災、特に21号のハウス等被害が大きいことから、香南市はJA 土佐香美本所、香美市はJA 土佐香美土佐山田支所において、補助や融資の利用の関係機関説明会及び相談会を開催し55名が出席しました。園芸用ハウス整備事業の災害復旧区分についての説明後、市の補助率、融資等の説明をしました。

農業改良普及課は、関係機関とともに説明会の後の個別相談会で被災状況の聞き取りや補助・融資についての希望を聞き取りしました。被災農家からは、「早急な補助の対応をしてほしい」など切実な現状の意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も、出席できなかった被災農家の希望を聞き取るための巡回など復旧に向け支援します。

第2回香美市集落営農塾の開催 ～組織化・ステップアップコース～



11月7日、香美市内の農業者等20名で四万十市西土佐地域の2集落営農組織（西土佐西部営農組合、(農)四万十川営農組合）を視察しました。

まず車内で、市から視察先の見どころ等について説明し、農業改良普及課からは集落営農の必要性等について資料やDVDを用いて啓発し、視察の意欲を高めました。

視察先では、近隣集落の組織が合併して農地を守る体制を強化したり、法人化により次の世代が営農しやすい環境を整えたりと、集落に応じた取り組みを学びました。

アンケート結果から、多くの方が「大変参考になった」と回答されており、「集落営農を前向きに検討したいので協力してほしい」や、「共同利用機械等を導入したい」など前向きな気持ちも伺えました。

今後は関係機関と協力して志向集落等へ働きかけを行い、組織化や組織のステップアップを支援していきます。



蕪生米のブランド価値向上に向け食味コンクール予選会



10月20日、JA土佐香美香北支所において、蕪生米研究会員12名が山形県で開催される第19回米食味分析鑑定コンクールへの出品に向けた予選会を開催しました。

農業改良普及課とJAは、出品された「にこまる」等の玄米24点の中から、肥料販売会社の協力で測定した食味計、整粒計のデータをもとに、優良な3点を選抜しました。

審査終了後には、会員間でコンクール入賞の可能性、良質米生産技術、品種選択等について議論を交わしました。

農業改良普及課では、良質米栽培技術の普及と有利販売に向け、引き続き蕪生米研究会の取り組みを支援していきます。